

2020年度 東京成徳大学卒業後アンケート結果の概要（大学全体）

I 調査の概要

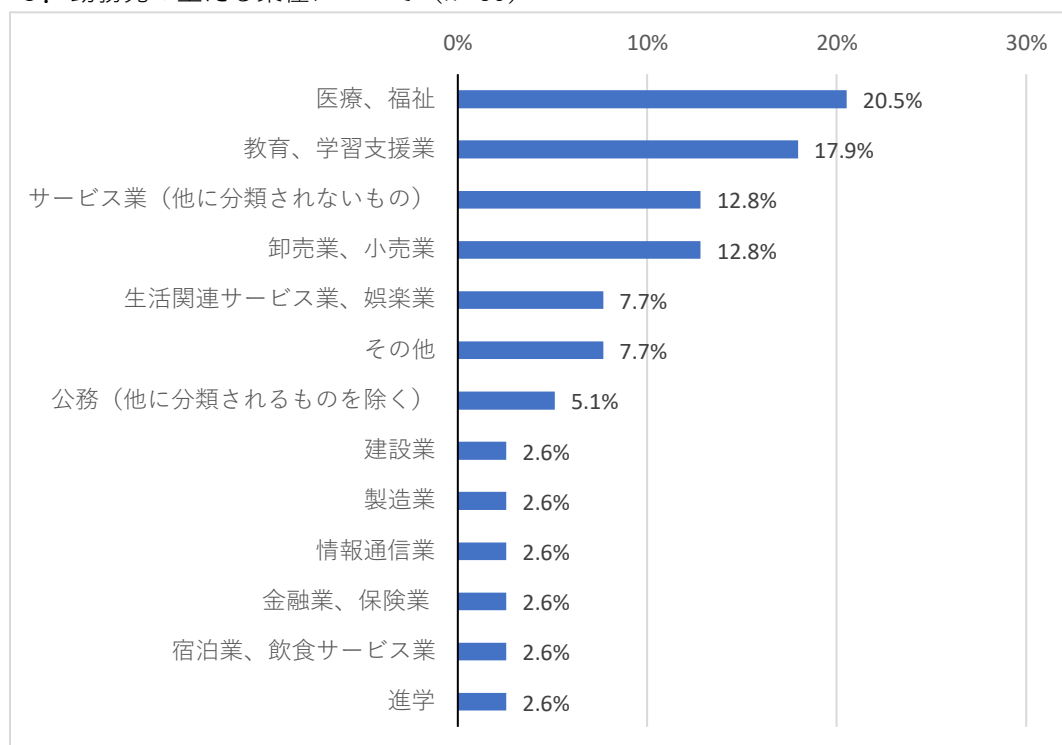
- (1) 目的 本学のアセスメント・ポリシーに基づき、本学の教育の質の向上をめざすPDCAの一環として、今後の在学生の教育や支援などに役立てるため、卒業後の進学や就職の状況、在学中に受けた教育内容やサービスなどの振り返り、本学で学んだことが現在の仕事等に活かされているかなどを把握する卒業後アンケート調査を実施する。
- (2) 対象者 卒業後2年目（2018年度卒業）の卒業生の内から300人（学科別の詳細は下表参照）
- (3) 方法 卒業生保護者住所（当時）へのWebアンケート回収先アドレスの郵送による
- (4) 期間 2020年12月18日～2021年1月16日
- (5) 回収状況 ()内は昨年度の数値

	返送数	男	女	対象者数	返送率
全 体	39(54)	13	26	300(450)	13.0% (12.0%)
日本伝統文化学科	4(1)	2	2	16(24)	25.0% (4.2%)
国際言語文化学科	2(3)		2	16(20)	12.5% (15.0%)
福祉心理学科	2(1)		2	14(21)	14.3% (4.8%)
臨床心理学科	6(7)	2	4	32(63)	18.8% (11.1%)
健康・スポーツ心理学科	5(4)	4	1	27(49)	18.5% (8.2%)
子ども学科	13(30)	1	12	115(178)	11.3% (16.9%)
経営学科	7(8)	4	3	80(95)	8.8% (8.4%)

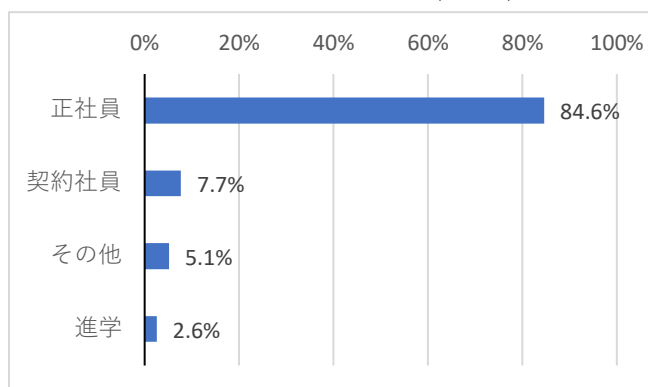
(注) 1)宛先不明による返送は15件。 2)学科別の卒業生数と送付者数の詳細は 末尾の参考資料参照。

II 勤務先及び勤務状況について

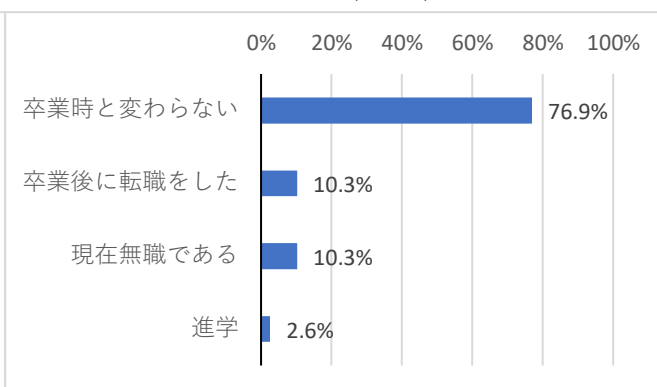
3. 勤務先の主たる業種について (n=39)



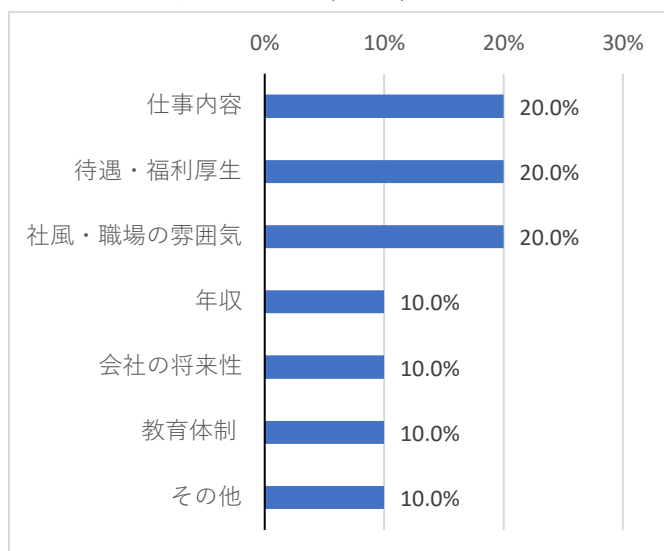
4. 勤務先での雇用形態について (n=39)



5. 現在の勤務先について (n=39)



6. 転職で重視した項目 (n=10)

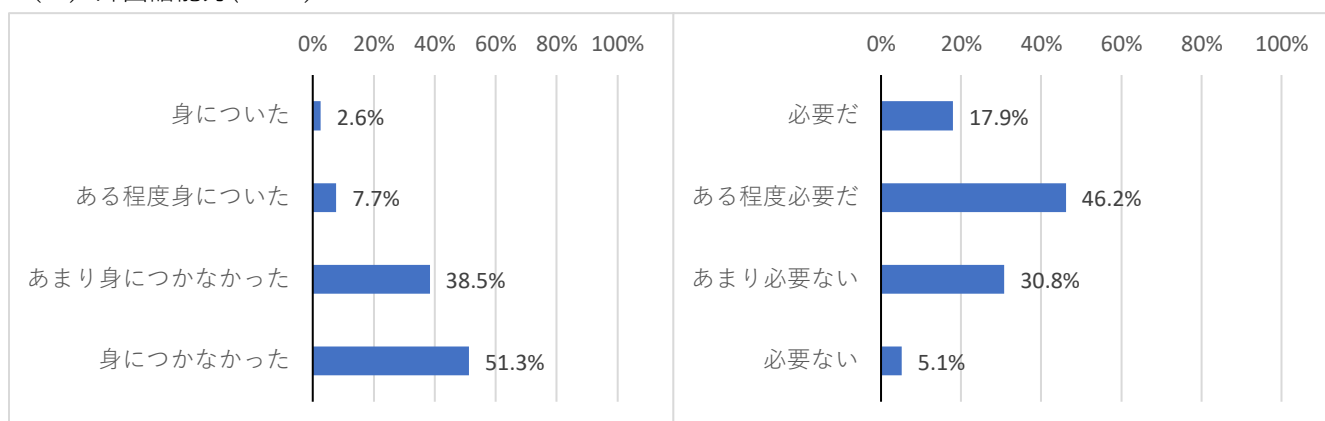


Ⅲ 大学での学びを通して、下記の能力や資質などはどの程度身につきましたか。また、それは実社会での仕事や社会的活動などにどの程度役立っていますか。当てはまる数字を（ ）に記入してください。

(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

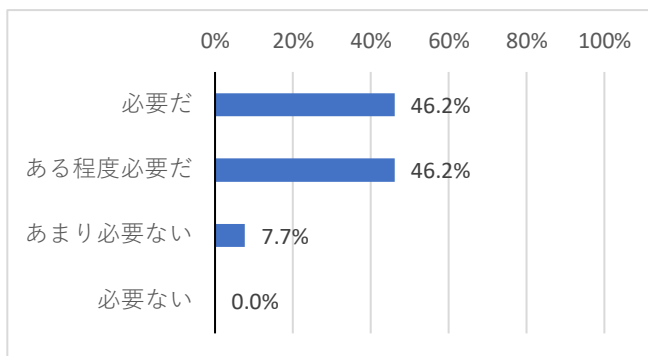
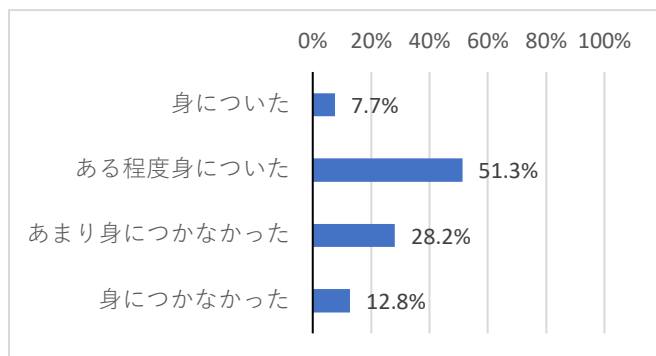
(1) 外国語能力(n=54)



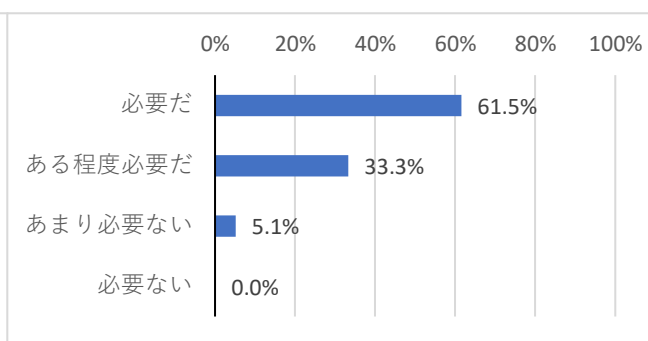
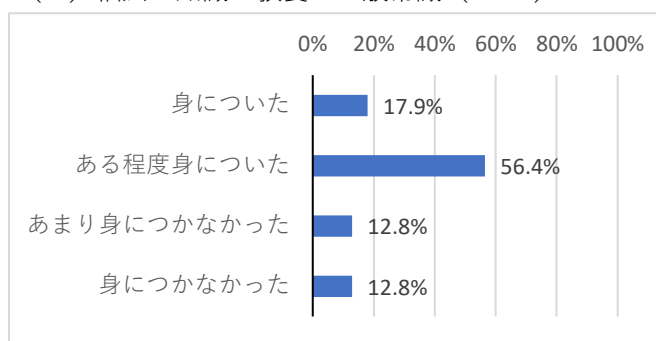
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

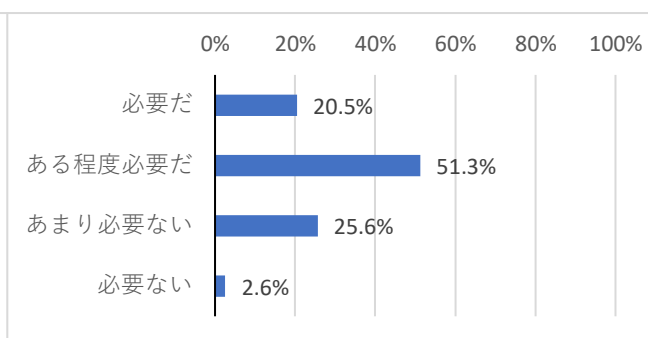
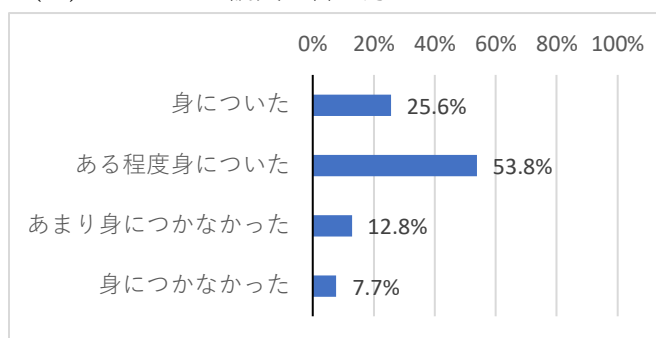
(2) ICTリテラシー (n=54)



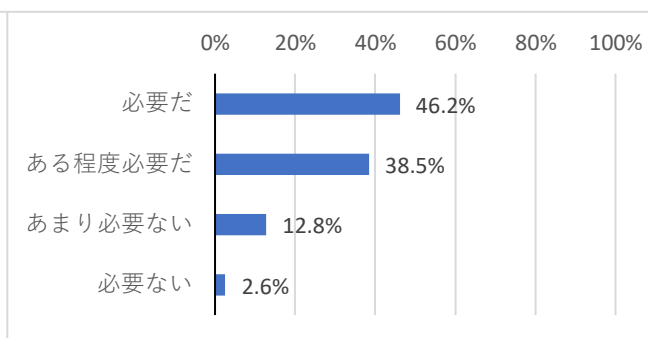
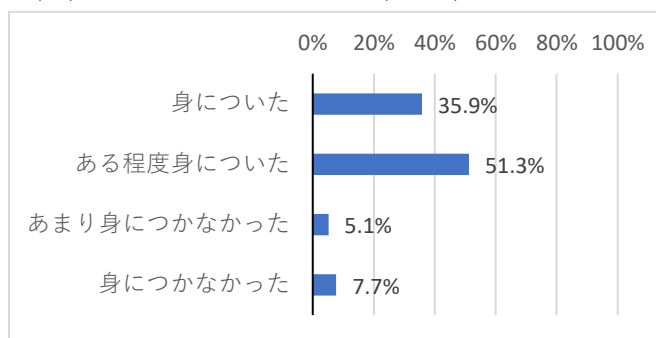
(3) 幅広い知識と教養・一般常識 (n=54)



(4) レポートや論文を書く力



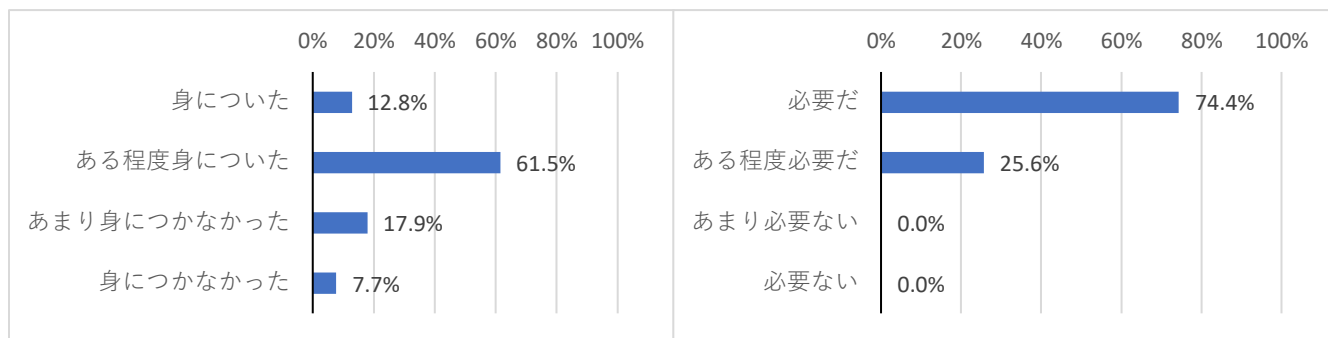
(5) 専門的な知識やスキル (n=54)



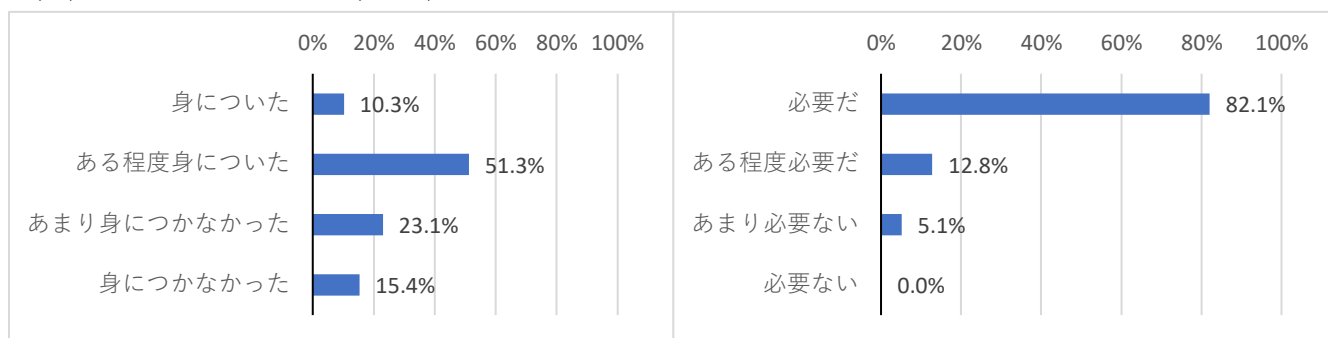
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

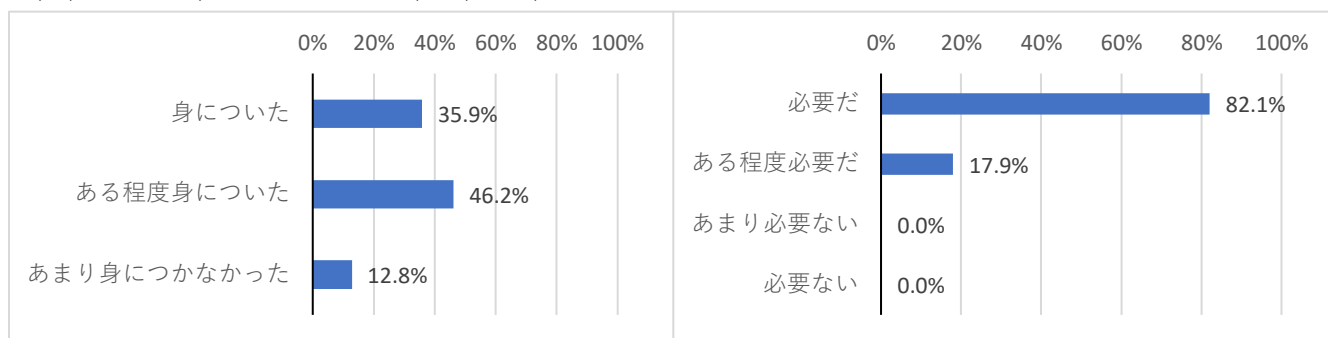
(6) 自主性・主体性 (n=54)



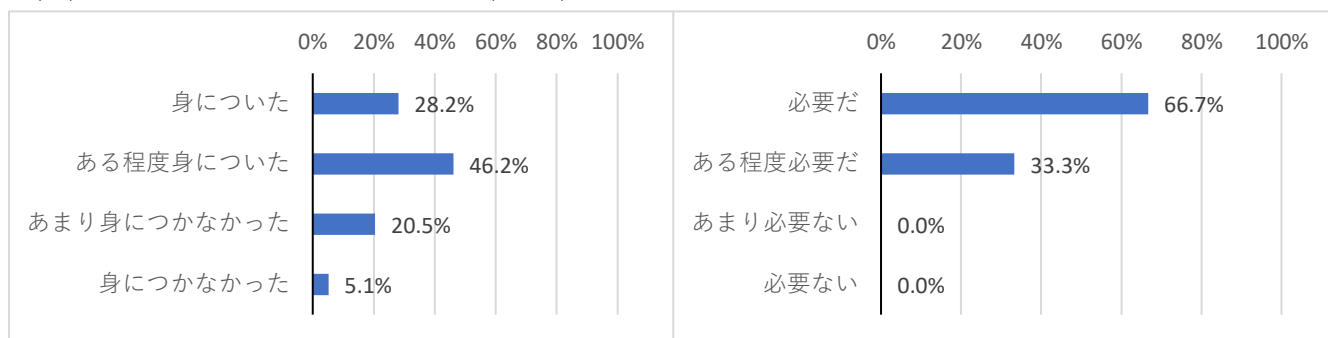
(7) 課題発見と解決能力 (n=54)



(8) 協働性 (一緒に取り組む力) (n=54)



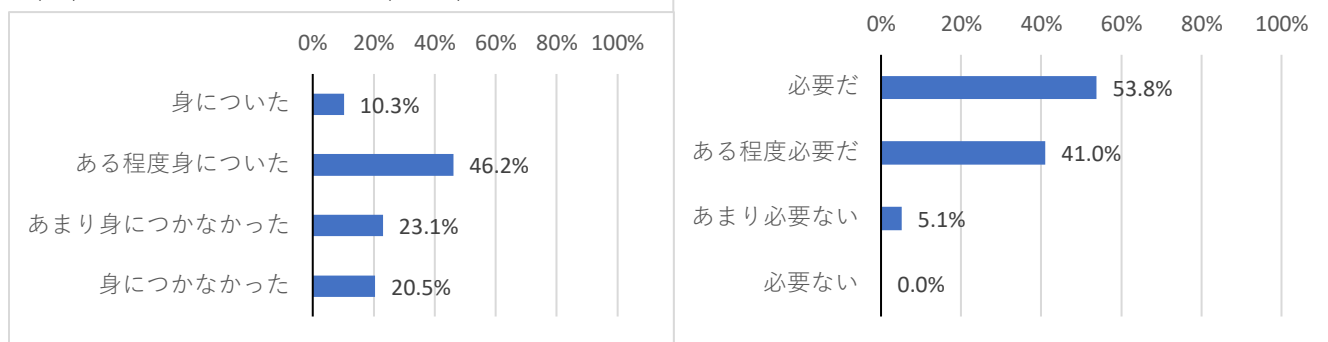
(9) 自分自身のものの見方・考え方 (n=54)



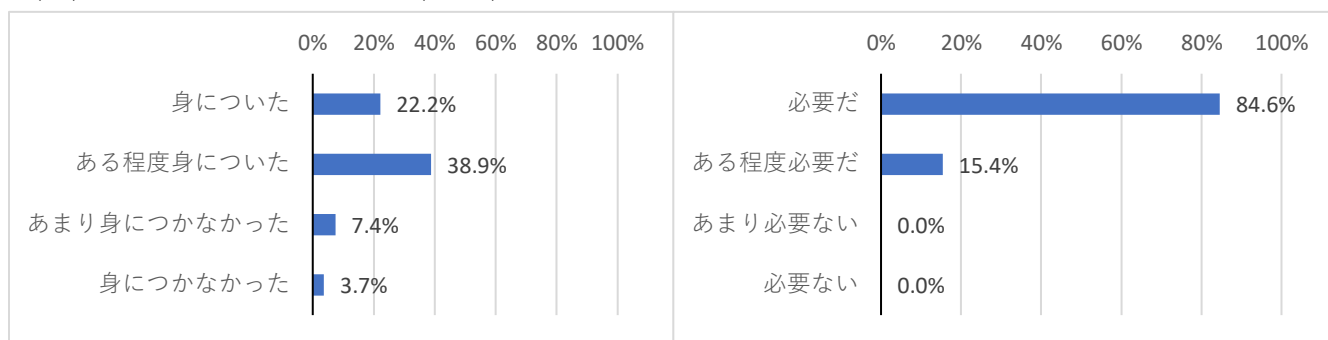
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

(10) プレゼンテーション力 (n=54)



(11) コミュニケーション能力 (n=54)



(参考資料：学科別・年度別の送付者数)

(人)

	2018年度	
	送付数	卒業生数
日本伝統文化学科	16	19
国際言語文化学科	16	19
福祉心理学科	14	16
臨床心理学科	32	38
健康・スポーツ心理学科	27	32
子ども学科	115	136
経営学科	80	94
計	300	354

2020年度 東京成徳大学卒業後アンケート結果の主要Facts（大学全体）

1. 就職先企業の属性

- (1) 業種 「医療・福祉」「教育・学修支援」「サービス業」「卸売業・小売業」が上位3項目（同率3位）で計64.1%
(2019年度)「教育・学修支援」「医療・福祉」「サービス業」が上位3項目で計55.3%
- (2) 勤務形態 「正社員」 84.60% (2019年度：92.58%)
- (3) 現在の勤務状況 「卒業時と同じ」 76.90% (2019年度：87.80%)
「卒業後に転職」 10.30% (2019年度：10.20%)
「現在無職」 10.30% (2019年度：2.00%)
- (4) 転職理由 「仕事内容」「待遇・福利厚生」「社風・職場の雰囲気」が各20.0%、「年収」「会社の将来」「教育体制」が各10.0%
(2019年度)「教育体制」「休日休暇」が各20.0%で最多、「勤務地」「仕事内容」「待遇福利厚生」
「社風・雰囲気」「人事評価」「その他」は各10.0%

2. 「大学の学びを通して下記の能力、資質がどの程度身についたか」と「社会に出て感じるそれらの資質や能力を大学時代に身につけておくことの必要度」について

(原因はどちらに?)

学修内容（「学修調査」をベースとする）		①大学の学びでどの程度身についたか		②実社会の仕事、社会的活動でどの程度必要性を感じるか		①－②（修得度不足）		2020年度－2019年度	
		2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	①	②
1. 外国語能力		1.6	1.7	2.8	2.8	-1.2	-1.1	-0.1	0.0
2. ICT リテラシー		2.5	2.2	3.4	3.1	-0.9	-1.0	0.3	0.3
3. 教養・基礎的スキル	幅広い知識と教養・一般常識	2.8	2.8	3.6	3.6	-0.8	-0.8	0.0	0.0
	レポートや論文を書く力	3.0	3.0	2.9	3.0	0.1	0.0	0.0	-0.1
4. 専門知識・スキル		3.2	3.1	3.3	3.4	-0.1	-0.3	0.1	-0.1
5. 社会人基礎力	自主性・主体性	2.8	2.9	3.7	3.7	-0.9	-0.8	-0.1	0.0
	協働性	3.1	3.1	3.8	3.6	-0.7	-0.5	0.0	0.2
6. 総合力	課題発見と解決能力	2.6	2.6	3.8	3.6	-1.2	-1.0	0.0	0.2
	自分自身のものの見方・考え方	3.0	3.0	3.7	3.5	-0.7	-0.5	0.0	0.2
	プレゼンテーション能力	2.5	2.5	3.5	3.3	-1.0	-0.7	0.0	0.2
	コミュニケーション能力	2.2	3.1	3.8	3.9	-1.6	-0.7	-0.9	-0.1

(注) ①、②は、「身についた＝4、ある程度身についた＝3、あまり身につかなかった＝2、身につかなかった＝1」および「必要である＝4、ある程度必要である＝3、あまり必要でない＝2、必要でない＝1」とする加重平均値。

(1) 修得度が高い項目（上位3位）

「専門知識・スキル」

「協働性」

「レポート・論文を書く力」 「自分自身のものの見方・考え方」

(2019年度)

「専門知識・スキル」

「協働性」

「コミュニケーション能力」

(2) 必要度が高い項目（上位3位）

「課題発見と解決能力」 「協働性」 「コミュニケーション能力」

「自主性・主体性」 「自分自身のものの見方・考え方」

(2019年度)

「コミュニケーション能力」

「自主性・主体性」

「幅広い知識と教養・一般常識」

「課題発見と解決能力」

「協働性」

(3) 必要度が高いが修得度が低い項目（上位4位）

「コミュニケーション能力」

「課題発見・解決能力」

「協働性」

「自主性・主体性」

「自分自身のものの見方・考え方」

(2019年度)

「コミュニケーション能力」

「自主性・主体性」

「課題発見・解決能力」

「幅広い知識と教養・一般常識」

修得度と必要度

